

公益社団法人日本包装技術協会

2024年度 活動方針

国内の産業界を取り巻く社会環境は、人口減少、人手不足等、社会構造による難題があるほか、人件費上昇、各種原材料価格の高騰などにより、企業活動の内側から見直しを迫られる問題もある。

また包装産業においては、国連が世界の共通目標として定めた「持続可能な開発目標（SDGs）」に沿った製造システムの構築と商品作りを国内全ての企業が取り組む必要がある。

一方、今年はいわゆる「物流の2024年問題」の実施年となり、この先の運用によっては包装商品の滞りも懸念されるなど、国民生活に多大な混乱が生じることも考えられている。

こうした中、2024年度の当会活動は、これらの状況を踏まえたうえで、包装並びに物流に関する最新情報の提供とアクションを行う必要があると考える。

協会は包装が取り組むべき課題を十分に認識・周知し、包装分野だけでなく他業界との横断的な情報・課題の共有を図り、問題の解決に取り組む必要がある。

以上のような状況を踏まえ、協会は次の事項を重点とした諸活動を展開する。

1. 包装産業の知名度の向上と就労機会の創出

国内人口の減少や、都市圏への人口の集中により、特に地方の中小企業において、年を追って人材の確保が厳しい状況となっている。

こうした中、当会では若い世代を中心とした就職希望者に対し、包装産業の周知を行う事により知名度を上げ、包装産業への就労機会を増やし人手不足緩和の試みを行う。

2. 国内外包装情報の断続的な発信

当会の国際ネットワークを駆使し、SDGsに即した世界の環境問題への取り組みや、国内での新製品情報、諸官庁情報を機関誌、講習会、ホームページ、メールマガジンを通じて断続的に行う。

3. 継続的な包装標準化への取り組み

国内包装業界の健全な発展に向け、JIS規格の制定・改訂作業を会員代表企業並びに各界専門家の協力を仰ぎ継続的に審議を行う。

また、ISOにおいては、ISO/TC122(包装)の議長及び国際幹事国として国内意見の取り纏め、並びにISO事務局への提案のほか、他国からの提案へのコメントを確実に言い、国際標準化やルール作りに向けた取り組みを行う。

4. 2024 東京国際包装展(TOKYO PACK 2024)の開催準備

今回で30回目となる東京国際包装展(TOKYO PACK)は、過去2回にわたって変則的開催(2020東京五輪による開催年の移動、及び新型コロナウイルス感染拡大による各種規制)を余儀なくされたが、6年ぶりの通常開催を予定している。

また、JAPAN PACKの主催者である(一社)日本包装機械工業会と、出展募集並びに観客動員での相互支援を行うことにより、両展の更なる充実を図る。

2024年度(令和6年度) 事業計画

1. 研修、育成事業、交流事業、普及啓発事業（公益目的事業1）

<研修、育成事業>

今年度においても新型コロナやインフルエンザ等のウイルス感染症対策を行う。研修事業についてはカリキュラム内容・開催時期等により、開催方式を Web オンラインによるものと、実地集合対面開催するもの、あるいはハイブリッドで開催するなど、参加者の安全・安心を第一に考えた、研修活動を展開していく。

各種包装人材育成事業の中の包装管理士講座は本年で 59 回目の開講を迎え、現在の社会状況やニーズから座学はオンラインで実施し、合宿は対面で開講する予定であるが、感染状況等によりオンライン対応も考慮する。

なお、出願受付は地域別（東京、名古屋、大阪、福岡、仙台、札幌）にて行う。

包装分野においてトップレベルの内容で実施されている包装専士講座は、引き続き新型コロナウイルスをはじめ各種感染症が流行している状況を踏まえ、輸送包装コース、食品包装コース、包装材料コース及び医薬品包装コースの 4 コースで合計 45 名までに募集枠を絞って実施する。

包装に携わる人々に求められる知識や技術を提供する人材育成コースと、内外の最新情報の提供を目的として実施されているセミナーは、昨年に引き続きオンラインと対面のスタイルを催事内容に合わせて選択し開催する。それぞれ時代に適合した内容が多いが、昨今の環境問題を背景とした持続可能な社会構築を目指した包装及び関連技術の開発動向や、生活者にとっての安全・安心そして利便性などを目指し開発された包装商品の事例等を主なテーマに本年も実施する。又、これらの事業は支部別に地域のニーズに合わせて開催しているが、地域のニーズを盛り込んだ内容となるよう取り組んでいく。

なお、すべての内容は当会のホームページで一般公開されており、包装に関心を持つ一般の方々も参加が可能である。

1) 第59期包装管理士講座 本部・支部 6月開講～9月終講（うち13日間）

開催地：集合・合宿研修 ロワジュールホテル豊橋（コース別に対面で実施）

一般講義 受講者の職場や自宅（オンライン受講希望者）

AP日本橋（対面受講希望者）

定員：445名

地域別募集枠 東京 220名 大阪 100名

名古屋 65名 福岡 30名

仙台 15名 札幌 15名

合格証書授与式(地域別開催) 10月～11月

東京、大阪、名古屋、福岡、仙台、札幌

2) 2024年度包装専士講座 東京本部

6月開講～3月終講 共通教科4日、専門教科10日

開催地：合 宿 湘南国際村センター

コース別座学 東京 (JPI 会議室・外部会議室)

定 員：45名 (4コース合計)

- (1) 第37期輸送包装コース
- (2) 第38期食品包装コース
- (3) 第37期包装材料コース
- (4) 第36期医薬品包装コース

3) 研究大会

- (1) 第62回全日本包装技術研究大会 富山大会

本部・支部

11月21日(木)～22日(金)

開催地：富山市 (富山国際会議場)

定 員：250名

4) 講習会 (無料)

- (1) JPI WEB フォーラム 本部・支部 4月～3月 年35回予定

オンライン開催 定員：300名

配信予定：東京本部 15本 関西支部8本 中部支部8本

西日本支部2本 東北支部2本

- (2) その他講習会

東京本部

包装情報ステーション 年2回 オンライン開催

中部支部

包装技術講習会 11月14日(木) ウィンクあいち

西日本支部

2023年度日本包装技術協会総会説明会特別講演 8月 西鉄イン福岡 定員20名

輸送・生活者包装研究会 10月 西鉄イン福岡 定員30名

*JPIWEB フォーラム講演での対応に変更し講演依頼を行う。

北海道支部

包装懇話会 11月

包装基礎セミナー 2月

東北支部

包装研究講演会 3月

5) 研修コース (有料)

東京本部

- | | | | |
|---------------------|---------|---------|-------|
| (1) 第30回包装新人研修コース | 4月 | JPI 会議室 | 定員30名 |
| (2) 第57回包装基礎コース | 5月 | 外部会場 | 定員70名 |
| (3) 第2回循環型包装コース (仮) | 9月 (予定) | オンライン | 定員80名 |
| (4) 第47回段ボール包装設計コース | 2月 | JPI 会議室 | 定員30名 |

関西支部

- | | | |
|-----------------------|------------------|---------------------|
| (1) 第31回包装基礎コース | 5月15日(水)~17日(金) | ハートンホテル北梅田 |
| (2) 第18回緩衝包装設計実践コース | 11月1日(金) | 大阪産業技術研究所 |
| (3) 第51回段ボール包装設計実習コース | 11月14日(木)~15日(金) | ハートンホテル北梅田・アイロップ(株) |

中部支部

- | | | |
|------------------------|-----------------|---------------|
| (1) 2024年度包装設計の基礎講座 | 5月16日(木)~17日(金) | 愛知県技術開発交流センター |
| (2) 第41回フレキシブルパッケージコース | 10月予定 | 日程調整中 |
| (3) 第15回食品包装コース | 2月予定 | 日程調整中 |

6) セミナー、シンポジウム (有料)

東京本部

- | | | |
|-----------------|----|---------------|
| (1) 化粧品包装セミナー | 9月 | 東京都内会議室又は Web |
| (2) 包装材料セミナー | 1月 | 東京都内会議室又は Web |
| (3) 医薬品包装セミナー | 3月 | 東京都内会議室又は Web |
| (4) 包装近未来シンポジウム | 3月 | 東京都内会議室又は Web |

7) 講演会・発表会

東京本部

- | | |
|----------------------|-----|
| (1) 2024パッケージングフォーラム | 10月 |
|----------------------|-----|

中部支部

- | | | |
|-------------------------------|-----------|---------|
| (1) 2024日本パッケージングコンテスト入賞作品発表会 | 12月12日(木) | ウインクあいち |
| (2) 第64回包装技術研究大会中部大会 | 2月 | ウインクあいち |

西日本支部

- | | | |
|--|------------------|---------|
| (1) 包装事例研究発表会(包装管理士合格者) | 10月30日(水) | 西鉄イン福岡 |
| (2) 包装事例研究発表会(2024日本パッケージングコンテスト入賞作品発表会) | 西日本支部・東北支部共催にて2月 | オンライン開催 |

北海道支部

- | | |
|------------------------|-----|
| (1) 第59期包装管理士合格者レポート発表 | 11月 |
| (2) 新春研究会 | 1月 |

東北支部

- | | | |
|--------------------|----------|-----------|
| (1) 東北支部包装技術研究発表大会 | 11月8日(金) | 江陽グランドホテル |
| (2) 新春講演会 | 1月 | 江陽グランドホテル |

8) 包装懇話会 (年間登録メンバー制)

東京本部

- | | |
|------------------|--------------|
| (1) 食品・流通包装懇話会 | 7月・9月・12月・2月 |
| (2) 医薬品包装懇話会 | 5月・9月・11月・2月 |
| (3) パッケージデザイン懇話会 | 5月・8月・11月・2月 |
| (4) 輸送包装懇話会 | 6月・9月・11月・2月 |

関西支部

- | | |
|----------------|-----------------|
| (1) 生活者包装研究懇談会 | 年3回予定 (内 見学会1回) |
|----------------|-----------------|

<交流事業>

本年度も国内、海外ともに、状況に応じてオンライン開催・対面開催での会議会合を行い、情報交換を通じて企業・他団体との連携を深める。実地見学は各地の企業・施設で受入先より実施応諾の得られたものから、漸次開催する。

1) 国内事業

(1) 見学会

- | | | |
|--------|------------|------------------------|
| ①東京本部 | 関東圏企業・施設見学 | 年3回予定 |
| ②関西支部 | 関西圏 | 年1回予定 |
| ③中部支部 | 東海地方及び隣接地域 | 9～10月(見学会)・3月(包装研究懇話会) |
| ④西日本支部 | 九州及び西中国地方 | 年2回予定 |
| ⑤北海道支部 | 北海道内企業 | 10月予定 |
| ⑥東北支部 | 東北地方企業 | 2023年度内に1回 |

2) 海外交流事業 (公益目的事業 1) 東京本部

(1) アジア包装連盟 (APF) との連携

- | | |
|-----------------------------------|-----|
| ①APF戦略会議 (スリランカ・コロンボにて) | 4月 |
| ②理事会、総会、アジアスター審査及び表彰式
(開催地は未定) | 10月 |

③アジアスター2024 オンライン審査

(2) 世界包装機構 (WPO) との連携

- | |
|--|
| ①前期行事：6月中旬 (タイ・バンコク) にて
前期理事会、ワールドスター2024表彰式、ワーキンググループ等 |
| ②後期行事：11月 アルゼンチン・ブエノスアイレスにて開催予定
後期理事会、コンフェレンス等 |

③ワールドスター2025 オンライン審査

(3) 国際包装研究機関連絡会 (IAPRI) との連携

(4) 包装視察団の派遣および HISPACK との提携

2024年5月7日(火)～10日(金)にスペイン・バルセロナにて開催される国際包装展 HISPACK2024 に包装視察団を派遣した。

(5) 海外からの来日包装関係者の受入れ

ミシガン州立大学包装学部 学生訪日研修計画への協力

(6) 海外への講師および包装専門家の派遣

2024年5月7日(火)～10日(金)にスペイン・バルセロナにて開催される国際包装展

HISPACK2024では、HISPACK事務局主催にて「ジャパン・デー」が催された。

事務局からの要請で、日本包装技術協会及び会員企業から講演講師を派遣した。

<普及啓発事業>

本事業の中心となる日本パッケージングコンテストは、経済産業省、日本商工会議所、主婦連合会等の後援のもとに毎年開催されている。一般に対してもホームページからの募集を行っており参加が可能である。本年度も大学、公的機関及び消費者団体の方々に構成された審査員によって選ばれる入賞製品をグッドパッケージとして（最高賞は経済産業大臣賞）「2024 東京国際包装展（TOKYO PACK2024）」の会場において一般公開する。本年度もこれまでと同様の内容で開催し、選ばれたパッケージはすべてその特長が写真付きで広報される他、英文で全世界に広報する。

木下賞は、授与された包装製品がその年の最高技術水準にあることもあり、最近では、これらの包装には生活の向上や環境負荷の低減等の意味から消費者が大変関心を示している。

本年度も審査員は官学及び民間からの有識者で構成され、応募はホームページを通して一般にも公開されるので誰でも無料で応募できるが、審査基準は大変高くまた厳しいものとなっている。

受賞作品は月刊機関誌「包装技術」に特集で掲載されるほか、2024 東京国際包装展（TOKYO PACK2024）で一般公開する。

- 1) 第48回木下賞 審査選考：11月予定
- 2) 2024日本パッケージングコンテスト 審査選考：6月 表彰式：8月
- 3) 2024グッドパッケージング展 10月
(2024 東京国際包装展（TOKYO PACK 2024）会場内)

2. 展示会事業（公益目的事業 2） 東京本部

1) 2024 東京国際包装展（TOKYO PACK 2024）の開催

2024 東京国際包装展は、本年10月23日～25日までの3日間、東京ビッグサイト東ホールにて開催する。30回目を迎える今回の開催テーマは「世界が驚く包装イノベーションを！～TOKYO PACK から世界へ～」。日本が世界に誇る「環境」・「機能」・「次世代技術」・「印刷・表示技術」の4つのキーワードを推奨テーマと設定し、TOKYO PACK から世界へ包装の最新情報を発信する。

また、TOKYO PACK 2024 新企画として、別途希望社によるメインブースへの誘導サインとして活用いただける「出展社インデックスコーナー」のほか、初めて出展される企業を対象とした「出展トライアルブース」を会場内に開設する。

本年10月の開催に向け、実行委員会を中心に、展示やセミナー企画など関係各位、関連機関との連携のもとに準備を進めていく。

名 称：TOKYO PACK 2024 － 2024 東京国際包装展

Tokyo International Packaging Exhibition 2024

会 期：2024年10月23日（水）～25日（金） 10:00～17:00

会 場：東京ビッグサイト(東京国際展示場) 東ホール

後 援：経済産業省 他8団体（申請予定）

協 賛：包装関連団体 100 団体

出展内容：包装資材・容器 包装機械 印刷・包材加工機械 食品・医薬品・クリーン関連機材、
検査・計測・環境関連機材 包装デザイン・サービス 次世代テクノロジー、
包装・物流ソリューション 海外出展

併催行事：2024 グッドパッケージング展、2024 木下賞受賞作品展

出展社による最新包装技術セミナー、PACKAGE DESIGN PAVILION 2024

2) 暮らしの包装商品展 2025 の開催準備

暮らしの包装商品展は、包装が果たす役割や重要性について理解を深めていただくことを目的とする消費者を対象とした普及啓発事業である。国民生活における包装の役割や最新の技術動向、各企業での取り組み、そして循環型社会の構築に向けて、消費者と包装関係者が共に集い、より良い包装について共に考える場として、毎回多くの消費者が参加し盛況に開催している。来年度の開催に向け、会場や展示企画などを検討していく。

3) アジア・ヨーロッパ主要各国の国際包装展への TOKYO PACK PR ブース参加

各国の今後の開催状況などを鑑み検討する。

3. 調査研究事業（公益目的事業 3） 東京本部

現在、日本は、ISO/TC 122(包装)の議長及び、国際幹事国を引受けており、当協会は、包装分野の国内審議団体の他に、ISO規格の開発・改廃を進め、これらを通じて国際間の相互理解促進に寄与している。2022年度からの事業年度（事業年度は3年間）では『戦略的国際標準化加速事業』テーマ名：適正包装に関する国際標準化」事業を推進し、日本から提案の新規事業開発として「ISO段ボール箱の形式呼称統一」をスタートさせた。また、継続事業として、「ISO/TR 18607：ISO 18600規格群に基づく包装の環境配慮設計ガイドブック」及び「改正ISO 21898：非危険物用フレキシブルコンテナ」の開発を進めている。

これら開発事業以外にも国際幹事国としてISO/TC 122(包装)における様々な規格開発の支援を行っている。一方、「包装のアクセシブルデザイン」は、日本から提案した4つの国際規格及びJIS規格の開発は終了し、「包装のアクセシブルデザイン」の個別規格として、JIS新規テーマ2件の規格化の活動を行い、2024年には規格を発行する。

また、包装は国民の日常生活に深く係っており、絶えず、その標準化を見直し、生活し易い環境を整えることが求められていることから、本年度もJIS規格の見直し作業も精力的に進める。

1) ISO/TC 122 (包装)の議長・国際幹事国(事務局)としての活動

ISO/TC 122 (包装)は、現在88件の規格を発行しており、Pメンバー31か国、Oメンバー48か国で日本が議長及び幹事国を務めている。また、TC 122の傘下には、2つのSCと12のWGを擁している。現在、活動中のプロジェクトは、10件である。

2024年度も、日本からの提案案件、海外からの提案に関する対応、定期見直し案件の対応SC、WGの議長、コンビナの選任及びこれらの案件に対する日本の回答案をまとめ配信するとともに、随時開催される国際会議へ参加を促す。これらを情報共有及び審議のため、国内対策委員会を設け、委員会を開催する。

2) ISO/TC 122 (包装)の国内審議団体としての調査研究及び標準開発活動

(1) 包装全般の国際規格に関する調査研究

(2) 「国際標準開発」に対する調査研究

日本新規提案

①ISO XXXX：段ボール箱の形式呼称統一の国際標準の開発

②ISO/TR18607：「ISO18600 規格群に基づく包装の環境配慮設計ガイドブック」の国際標準の開発

日本改正提案

③ISO21898：「非危険物用フレキシブルコンテナ」の国際標準の開発

海外提案対応

④ISO 4924：宅配便包装におけるエコデザインの原則と適用（中国新規提案）への対応

⑤ISO 7683：PETボトルに適用される取り外し可能なシュリンクラベルに関する設計ガイドライン及び試験方法（韓国新規提案）への対応

⑥ISO 17508：危険物輸送包装ーポリエチレン、フッ素化ポリエチレン及び共押出プラスチックの適合性試験（ドイツ新規提案）への対応

3) JIS制定・改正に関する調査研究

(1) 包装に関するJISの原案作成事業の実施

①JIS S 0021-5「包装ーアクセシブルデザインー第5部：集合包装用段ボール箱の重量に関する情報の表示」の制定

②JIS S 0021-6「包装ーアクセシブルデザインー第6部：詰替え容器」の制定

③JIS Z 0241「包装ー温度制御が必要な小包輸送に用いる包装容器の保冷性能試験方法」の制定

(2) 5年経過したJISの定期見直し

上記標準化開発、調査研究は、政府関連機関からの委託事業又は日本規格協会の公募事業である。

4) 2023年の日本の包装産業出荷統計に関する調査研究

日本の包装産業出荷統計に関する調査研究は、昭和38年の創立以来欠かさことなく継続しており、本年度も2023年の統計を刊行する。これは、機関誌「包装技術」への掲載(2024年7月号予定)、また当会WEBサイトにて公表される。

5) 包装教育に関する研究・調査

4. 出版関連事業 (収益事業) 東京本部

月刊機関誌「包装技術」は、包装専門家で構成された編集委員会によって企画が行われており、創立以来、欠号なく刊行されている。本年度も引続き一層の内容の充実を図りながら月刊機関誌として毎月刊行する。本誌は、包装技術及び関連情報が中心となっているが、当会事業の案内や調査研究の成果、さらに新会員の紹介等幅広い内容を掲載し公開している。本事業は収益事業として、一般による購読収入と広告収入によって進められている。本年度も引続き編集委員会主導のもとで編集に当たる。

また、包装技術便覧を1995年以来の全面改訂版(第5版)として2019年2月に発刊、2022年10月には創立60周年を記念し、新たに「包装用語 早わかり」包装用語辞典も発刊したことを受け、今後も、包装産業界の人材教育、研究開発の一助として広報並びに販売を行っていく。

- 1) 機関誌「包装技術」の刊行 月刊 (毎月1日発行)
- 2) 包装技術便覧(2019年2月発刊)の販売
- 3) 「包装用語 早わかり」包装用語辞典の販売
- 4) 「包装...知っとく知識」改訂2版の発行(2024年10月予定)
- 5) 「Q&A 容器包装規制基準の手引き」誌の編纂
- 6) 機関誌「包装技術」の電子データアーカイブ化

第2. 諸 会 議

- 1) 理事会 5月20日(月)・6月14日(金)・11月26日(火)・3月 如水会館
- 2) 常務理事会 10月16日(水)・2月13日(木) Web会議・JPI会議室
- 3) 全国支部連絡会 5月・11月
- 4) 本部・支部諸会議 本支部単位で運営委員会・講習会委員会等を逐次開催
 - ①東京本部 (研修教育) 包装専士講座研修委員会、包装管理士講座研修委員会、WEBフォーラム委員会、包装懇話会幹事会、各種セミナー企画委員会、他
(展示会) 東京国際包装展実行委員会
(調査研究) ISO/TC122委員会、JIS委員会、包装統計委員会(12月)他
(出版) 月刊機関誌「包装技術」編集委員会(毎月)、包装統計委員会(12月)
 - ②関西支部 役員会5月30日(木)、運営委員会8月28日(水)・3月7日(金)
生活者包装研究懇談会実行委員会(年2回/6月・3月)
 - ③中部支部 役員会 5月29日(水)、運営委員会(年2回/9月・3月)
研究例会テーマ検討作業部会 2月
 - ④西日本支部 運営委員会 8月・2月 個別連絡にて報告
 - ⑤北海道支部 運営委員会 5月・10月
 - ⑥東北支部 運営委員会 5月・9月 WEB・3月

第3. 行事・その他の活動

1) 行事

(1) 第13回定時総会		6月14日(金)	如水会館
(2) 新年会			
東京本部	2025年包装界合同新年会	1月8日(水)	東京會館
関西支部	2025年新春会員交流会/講演会	1月24日(金)	大阪倶楽部
中部支部	2025年新年賀詞交歓会	1月16日(木)	名古屋マリオットアソシアホテル
北海道支部	2025年新春賀詞交歓会/新春研究会	1月	
東北支部	2025年新年名刺交換会/新春講演会	1月予定	江陽グランドホテル

2) 会員交流会・支部特別講演会

関西支部 総会	5月30日(木)		
中部支部	6月25日(火)		
西日本支部	8月		
北海道支部 総会	6月、IPP合同親睦会	7月予定	
東北支部 新包装管理士を囲む会	11月8日(金)		江陽グランドホテル

3) その他の活動

- (1) Webサイトによる最新情報の提供 ホームページ定期更新12回ほか逐次情報発信
協会公式ホームページ、展示会専用ホームページ、SNS(facebook)
- (2) Eメールによる協会活動内容の国内配信 JPIメールマガジン 12回
- (3) JPI関連団体との連絡提携
日本包装専士会、日本包装管理士会、日本包装コンサルタント協会、
技術士包装物流会、日本包装学会、日本MH協会 他
- (4) 行政機関要請への協力と連携、研究機関、消費者団体、市民団体等との連携
経済産業省、厚生労働省、農林水産省、中小企業庁、消費者庁、東京都、
横浜市、福岡県循環推進課
(地独)大阪産業技術研究所、兵庫県工業技術センター、
あいち産業科学技術総合センター 他
- (5) その他
要請内容について随時判断